

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071500922		
法人名	(医療法人)完光会 今野病院		
事業所名	医)今野病院 グループホーム青葉	ユニット名	青葉Ⅰ 青葉Ⅱ
所在地	福岡県大牟田市青葉町12-11		
自己評価作成日	平成27年1月4日	評価結果市町村受理日	平成27年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成27年1月9日	評価確定日	平成27年1月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2ユニットが立ち並ぶ敷地内の小山には、梅や杏、桜の花が咲き、山菜が採れ、果実の木もあり梅や杏、栗、みかんが実ります。手作りの花壇や畑には、四季の花々が咲き、野菜や芋などの食材が食卓へあがります。隣の高齢者マンション住人も通りかかりに、立ち寄りたり、会話が出来ます。入居者、職員も仲良くお互いのユニットに行き来しています。母体病院と隣接しており、医療面でも24時間対応で看護師、医師と連携できています。外出支援も頻回に行っています。地域の行事に参加したり、青葉の行事に参加協力して頂いています。入居者と職員は、笑顔と歌の絶えない明るいグループホーム青葉です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大牟田市青葉町にある“グループホーム青葉(青葉Ⅰ)”は開設から15年を迎えている。後から開設された“青葉Ⅱ”のユニットと連携し、職員全員で理念の実践に努めてこられた。管理者を含めて4人の看護師(准看護師)が配置されており、介護職と共に日々のケアを続けている。車いすを利用されている方も多く、身体介護が増えている中、立位訓練や歩行訓練等のリハビリと共に、洗濯物たたみや食事の下ごしらえなどの役割作りにも取り組まれている。ホームの畑で野菜を育てており、裏山の栗の収穫もできる。ご利用者の好物の栗ごはんやだご汁、がめ煮なども喜ばれ、蒸かし芋や“いきなり万十”等も手作りしている。法人内の職員の異動や職員の退職も経験する中、管理者などを中心に職員のチームワークは保たれており、新人職員の成長も素晴らしく、今後も全職員の力を結集し、ご利用者(家族)の望む暮らしに向けた取り組みを続けていく予定にしている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送りには、全員で理念の復唱は続けており、理念が浸透するように心がけています。また外出には、積極的に出かけ、自由で開放的に努めています。	「地域とのふれあいを大切にしながら 家庭的な雰囲気の中で その人らしく ゆったり 楽しく 自由な生活が送れるように支援します」という理念であり、新人職員も、管理者や先輩職員から丁寧な指導を受け、日々のケア内容を通して理念を学ばれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者は地域の夏祭りに参加し、職員は公民館班長会議、公園清掃、リサイクル当番、夏祭りの力仕事など地域の一員になっています。	地域の大蛇山祭巡行や天満宮大祭等に参加している。クリスマス会には幼稚園児が来て下さり、敬老会では大正琴のボランティアの演奏を楽しまれた。民生委員の方が絵手紙教室をして下さり、絵手紙の年賀状を家族も喜んで下さっている。大牟田市の徘徊模擬訓練の委員も務めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の地域役員、中学生福祉体験実習、絵手紙の講師の方など、認知症の理解や支援の方法など伝えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員の入れ替わりがあり、定着できるように、マニュアルの見直しを介護事業部全員で考え、職員教育に活かせるような仕組みを作成しています。	写真入りの資料で日々の取り組みを報告しており、参加者からも好評である。自己評価(外部評価)結果や「虐待チェックリスト」の報告も行われ、参加者の方々から具体的なアドバイスを頂いている。今後は更に、頂いたアドバイスの取り組み状況を報告していく予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	金銭管理を家族がしており、必要な物やお金が滞ったとき、市役所の方に相談、協力して頂きました。介護事業部研修では、市職員に講師として年に3回程度来て頂いています。	管理者が市役所を訪問し、状況報告している。課題が生じた時も相談し、担当者の方が解決に向けた調整をして下さったり、市の職員が「高齢者虐待防止関連法を含む虐待防止」等の講義をして下さっている。介護相談員の訪問もあり、介護職員初任者研修生の受け入れも続けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護事業部研修で、市職員講師による研修を行い、正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	ご利用者が不穏になられた場合は、ご本人の思いや原因を把握すると共に、職員が側に寄り添い、優しく抱きしめる等の対応をしている。家族にも転倒リスク等を報告し、ケア内容の報告をしている。「虐待の芽チェックリスト」を職員個々に記載し、日々の振り返りを続けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護事業部研修で、市職員講師による研修を行い、虐待の芽チェックリストでチェックすることにより、日々のケアを振り返り、意識付けをして、運営推進会議で報告しています。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護事業部研修で、市職員講師による研修を行い、成年後見制度を利用している入居者もいられ、また本年度は家族より相談があり、利用までは至らなかったが、関係者と話し合いを行いました	職員は制度に関する外部研修に参加し、職員に伝達している。入居前から成年後見制度を利用している方もおられるが、入居時に家族全員に制度の説明をしている。必要に応じて母体病院の社会福祉士に相談し、家族との話し合いが行われている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約の際には、利用者や家族等の不安や疑問点を訪ね十分に説明を行い理解納得をはかっています。本年度は消費税増税の為、食費の変更があり、説明し納得され署名捺印されています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者、家族アンケート調査を行い意見や要望を聞いています。外出では、プチドライブや散歩に多く出かけています。麻痺があり怪我を心配されている方には、夜勤以外は細心の注意を行い、二人対応支援しています。入浴の件では、車椅子対応の機械浴設置決定しています。	家族の面会時に積極的に職員から声かけしている。年1回のアンケートは、ご利用者と家族それぞれの要望を伺う機会になっており、食事や外出の希望は日々の生活に取り入れている。職員の異動や離職への不安も聞かれ、人員体制を整える取り組みを続けている。	年に1回、日々の暮らしを伝えるお便りを家族に渡している。健康状態の報告も密に行っているが、今後は更に日頃の暮らしぶり(日々の生活や外出状況等)を丁寧に報告すると共に、家族の要望を伺っていきたいと考えている。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回個人目標用紙に意見や提案を書く欄を設けています。カンファレンスで話し合っており、記録用紙や、研修内容、行事内容を決めています。	日々のケアの情報交換も活発で、職員手作りの福祉用具なども増えている。人員体制の要望もあり、職員の募集を継続すると共に、職員の腰痛対策も検討し、27年1月末には特殊浴槽が設置予定になっている。職員は、ご利用者が湯船に浸かれる事を喜ばれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は介護部長に個々の実績や評価を報告しています。各自が向上心がもてるように「組織人・社会人としての意識向上」職場のモチベーションアップの研修もを行い、個人目標に到達できるように努めています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	法人代表者は、募集、採用にあたって、年齢、性別、の制限はありません。職員の特技に合わせ料理、園芸、手芸、歌、体操など生き生き働いています。	資格の有無は問わず、接遇面や言葉遣い、明るい方等を大切に母体病院で面接している。異動の可能性もある事も伝えており、幅広い年齢層の職員を採用している。資格取得を目指す職員には、受験の日程に合わせて勤務調整を行い、院長がケアマネ受験の指導をして下さっている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	介護事業部研修で、市職員講師による研修を行うと共に、「その人らしさ」と「尊厳を敬う」研修を続けている。	毎週火曜日に母体病院で朝礼があり、院長から「自分の親と思って大切にしてください」等の指導が行われている。管理者等からも、ご利用者本位と言う視点で、ご本人自身に思いを確認する事の大切さを伝えており、ご本人に意思決定をして頂けるように努めている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護事業部研修で、外部講師による認知症の病気とケアについて研修を行い、外部研修にも出し、日々のケアに繋がっています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	あんしん介護相談員意見交換会や認知症研修時など、会った際に、他事業所の意見や方法など習得して、サービスの向上に努めています。本年度は、大牟田市の徘徊模擬訓練に参加して、地域の他事業所と関係作りも出来ています		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み時に本人が困れている事や要望など大まかに聞き、入居を考える時は自宅(その方が生活している場所)に出向き、自室に近い環境を考え、不安な事を把握し、お試して来て頂き、関係作りに努めています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から申し込み時より、家族の困っている事、不安、要望などをうかがい、入居を考える時は、自宅まで出向き、本人と家族の関係性も観察しながら現時点での困っている事、不安、要望を把握して、関係作りに努めています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族からよく話を聞き、現時点でどのようなサービスを受けていられるか、また必要時は現在利用されている事業所やケアマネにも話を伺い、本人、家族の現状に合った他サービスなども考慮しています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活者として食事、家事など一緒にする楽しみや、役割を与え必要な存在として関係性を築いています。思いやりや笑顔、感謝の気持ちなど学んでいます。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活状況を家族に伝え、又家族の状況も伺っています。本人には、家族の事を思いだされるように、子供さんの話をしています。行事には参加され楽しい時間を過ごして頂いています		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	女学校時代からの友人で足が悪く会いに行けないとの事で、住所を聞き場所を確認し送迎をしました。	家族や友人に、ご本人が書かれた絵手紙を郵送している。ご主人の月命日に、居室で僧侶がお経を唱えて下さる方や、宗教関係の行事に参加される方もおられる。知人宅で昼食を食べてこられたり、新聞を読む事が習慣の方には、ご主人が新聞を届けて下さっている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格を把握して、テーブルの席順でも、気が合う方同士にしたり、年配者を敬えるように、気遣って頂いています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退所された方には、お見舞いに行き、病状や今後の事について、話を伺っております。不幸にして亡くなられた方には、弔電を送りお別れの挨拶をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用して、アセスメントしていません。日々の生活の中から希望や意向をさりげなく担当者が把握し、家族には来所時に管理者、ケアマネ、計画作成担当者が伺っています。困難な場合は本人本位に検討しています	ご利用者とゆっくり話すようにしており、食べ物や買物等の要望を伺っている。意志疎通が困難な方は表情や行動を確認し、思いの把握に努めている。今後も引き続き、自宅訪問などの機会を作り、昔の写真等を見せて頂きながら、ご本人の真の想いに近づいていきたいと考えている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時から本人、家族より会話の中から聞き取り、また、利用されていた事業所やケアマネと連携をとり把握に努めています		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時には、以前の生活パターンを本人や家族から聞き取ったり、利用されていた事業所、ケアマネと連携をとり、入居時は24時間シートを使用し把握しています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者と担当職員が主になり本人、家族と話し合い、意見など反映し現状に即した介護計画を作成しています。	ご利用者と家族の要望を伺い、主治医にも助言を頂き、計画作成担当者が原案を作成している。自立支援の視点を大切に、リハビリ(立位訓練等)や車いすを自分で駆動する等の内容も盛り込まれ、ご本人の真の想いを推察し、「人の役に立ちたい」等の目標を掲げ、日々の役割も明記している。	今後も行動障害の原因を分析し、対応策も含めてアセスメントに残していく予定である。ご利用者の「望む暮らし(生きがいや役割、楽しみ、夢など)」を丁寧に把握し、介護計画の1表「生活への意向」を膨らませていく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録用紙に項目欄を設け、気づきがかかるように作成して、職員間で情報が共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズがある時は、既存のサービスに捉われない柔軟な支援やサービスの多機能に取り組めます。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	クリスマス会では、入居者も歌に合わせて振り付けし、発表しています。近くの幼稚園児も毎回参加され楽しくできています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接に母体病院があり、往診があり、急変時も常に医師と連絡がとれ対応できています。他科受診時では本人、家族と話し合い、希望の所へ受診しています。他科受診も事業所や家族と一緒に受診しています。	入居前から母体病院が主治医の方も多。24時間、母体病院との医療連携ができ、体調変容に対応できる体制を整えている。通院介助は職員がしているが、家族が受診支援される方もおられ、体調に応じて看護師等も同行し、主治医からの指示を聞いている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、日々の健康管理、状態は把握できています。訴えが出来にくい方も日々の関わりの中で、変化に気づき対応しております。24時間いつでも連絡できる体制		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病状、認知症の状態や1日の過ごし方等、事細かに情報提供しています。お見舞いにも行き家族と連絡をとりながら、経過状態を把握し、家族面談も参加し、早期の退院に繋がるようにしています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人、家族から看取りについての意思の確認をしています。重度化、終末期には、随時本人、家族、医師、管理者、看護師と連携をとり、ここで出来る限りの終末期に取り組んでいます。最後は母体病院へとなっております。	「看取りに関する確認書」を基にホームの方針を説明し、意向確認をしている。看取りケアの経験はないが、母体病院への転院ぎりぎりまで誠心誠意のケアが行われ、お好きな果物等も食べて頂いた。往診もあり、医師と看護師、家族との連携が図られている。今後は医療ニーズの高い方が入居される可能性があり、医療面の勉強を続けている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	大牟田市消防署の救急蘇生基礎講習を職員は受けており、胸骨圧迫法、人口呼吸法、AED操作、出血時の止血法、気道異物除去法等受けて、実践力をつけています。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震・火災訓練は夜間想定で年に2回行っており地域住民、入居者、全職員で避難できるように訓練しております。自動火災通報装置では地域の方の電話番号も登録し、いつでも駆けつけていただけるようにしています。	母体病院や高齢者マンションの職員、民生委員の方も訓練に参加して下さっている。テント内煙中訓練や煙探知機を作動し、音声の確認も行われた。消防署や運営推進会議の参加者からも具体的なアドバイスを頂いている。災害に備え、母体病院で3日分の飲料水や非常食等を準備している。	今後は更に自主訓練の機会を作り、災害時に指揮ができる方々の訓練も行い、応援に来て下さる方との連携を強化する予定である。ハザードマップを基に、自然災害の対応も検討していきたいと考えている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「自分の親だと思って大切にする」「自分がされて嫌な事はしない」が設立者の言葉であり、敬う気持ちを忘れず、その方のペースに合わせ声掛けや対応をしています。	管理者やケアマネの方々は、職員個々に「急がせない、ゆっくり話を聴き、話す時もゆっくり…」などを伝えている。日々の関わりの中で思いやりの気持ちを持って声かけしているが、忙しい時間帯などにケアを行う前の声かけを忘れていた時もあり、管理者が指導している。	「虐待の芽チェックリスト」の結果を基に、今後は職員全員で対応方法の検討を行う予定である。敬う気持ちを忘れず、ご利用者の思いを受け入れる事の大切さを職員間で共有し、ご本人の意思決定を支援していきたいと考えている。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない会話の中や入浴時にはよく話をされる時に思いや希望に気付けるように、また、静かな所で、個別にゆっくり話ができるようにしています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日程はあるが、遅くまで眠っている人、食事とトイレ以外は部屋で過ごす人、1日中歌を唄っている人、テレビを観られている人、ホールで居眠りしている人、それぞれのペースに合わせて支援しています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った洋服を一緒に選んだり、お出かけの時は化粧なども行います。髪型も訪問美容に來られ好みの髪型に切っていただいています。身だしなみを嫌がられる人にはタイミングをみて支援しています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を入居者の方に相談しながら立て、だご汁やがめ煮などの郷土料理、菜園や山で採れた野菜、山菜、栗など食卓に、おやつも手作りしたり、職員は同じ食事を一緒に会話も交えながら食べています。	朝夕は母体病院で調理し、昼食は調理担当の方などがホームで調理している。旬の料理を大切にしており、畑のお芋で大学芋を作ったり、敷地内の栗で栗ご飯も作られている。ぜんざい等のおやつも手作りで、ご利用者の方々も、玉ねぎの皮むきやインゲンの筋取り等をして下さっている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝夕は母体病院の配食で、昼は職員が作っています。母体病院管理栄養士が献立確認されています。水分摂取の少ない方には計量して把握しています。飲み込みの悪い方は、トミを付けて飲み込みやすくして支援しています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科の定期的往診をされており、その方の状態を把握し、口腔ケアの仕方を習い、行っています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、パット交換が少なくなるように、声掛けをして誘導しています。日中はトイレでの排泄を促し、移乗全介助の方にも排便時はすっきり出られるように便座に座っています。	職員はトイレでの排泄を大切にしており、トイレで排泄できるように立位訓練等も続けている。排泄感覚や表情等も丁寧に観察し、個別にトイレ誘導している。心身状況に応じて2人介助も行われ、ご利用者の排泄状況を把握し、昼夜含めてパットの大きさも変更している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に牛乳かヨーグルトは毎朝付いています。野菜を多く献立に取り入れ、排泄パターンを把握して、排便誘導、前かがみになり、腹部マッサージを行い、日頃より、立位訓練を勧めて行っています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に6日午後よりお湯を沸かして、本人の希望の日に入れてます。浴槽に入れるような工夫を考え実施しています。本年度には車椅子対応機械浴が設置決定しています。	お風呂好きな方が多い。入浴の順番や湯温の希望にも応じ、湯船では職員との会話を楽しまれたり、ゆったりと入浴して頂いている。青葉Ⅱに機械浴が設置される事で、湯船に浸かれる機会が増える事を職員も喜ばれている。職員は機械の操作を習得し、安全な入浴支援に努める予定である。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中もホールでうたた寝されている方は、声掛けして、部屋で少しの時間でも休まれています。夜間も本人の好きな時間に休んでいただいています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護事業部研修で薬剤師による講義をうけ、一人ひとりのお薬説明書はファイルしていつでも見れるようにしています。配薬与薬は職員2名の目で確認し、本人にも名前確認しております。薬変更時は日誌に記入して病状の観察をして記録に残しています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たみ、引き膳、台拭きなどされ、歌、踊り、運動等されています。玄関にはメダカ、季節の鉢花を置き、いつでも外に出られるようにしています。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブに行きたい、家に帰りたい、近くの散歩、銀行や郵便局へお金下し、お菓子や日用品の買い物、洋服の買い物に出かけられています。お正月やお盆には、家族の協力のもと自宅に外泊や外出されています。	外出の機会を増やしてこられた。気候の良い時はホーム周辺を散歩し、ホームの畑で野菜の成長を楽しまれている。散歩の時は職員がお花を摘み、リビングに飾っている。受診の帰りに花屋でお花を眺めたり、季節に応じて藤の花や秋桜の花見に行かれている。家族とドライブに行き、温泉に入ってもらえる方もおられる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人の入居者はお金を所持しておられ、買い物も本人に選んでもらい支払いもされています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、自らかける事は少ないが、かかってきたときは、本人に代わり、最後に職員が対応し会話の内容を記録に残し忘れられないようにしています。年賀状は毎年出し友人からも返事が来ています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、メダカを飼っていて、季節の鉢花を置いています。陽があたるのですだれやよしずで対応しています。温度湿度は、湿温計を設置して温度管理しています。	ご利用者はリビングで過ごされる方が多く、冬は加湿器を使用し、夏はゴーヤを育て、緑のカーテン作りに挑まれている。廊下にも椅子やソファを置き、ご利用者同士で団欒されている。車椅子の方も多く、職員が車椅子の高さに合わせたテーブルを作る等、色々な工夫を続けている。リビングのドアの開閉が重くなっており、修理の検討をしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置で、気の合う人同士に座っていただいたり、老人カーが必要な方には椅子のすぐ横に配置し、自分の好きな時に動けるようにしています		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや椅子、ベッド、寝具等持ち込まれています。仏壇がある方もいます。昔の写真や家族写真、自作の手芸品、折り紙、絵等飾っています。	自宅で使用していた鏡やテレビ等と共に、ご自分で編まれたセーターや“さげもん”等も持ってこられている。家族の写真や仏壇などの大切な物も置かれ、月命日には僧侶の方がお経を唱えて下さっている。色鉛筆やクレヨン、絵の具等の趣味の道具もあり、干支の絵を描いて下さる方もおられる。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドの高さやポータブルトイレの高さ等本人に合わせています。居室を忘れられる方がいるので、全室名前を貼っています。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				